

# 京都駅西部エリア活性化将来構想

## 素案

平成26年9月

京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会



# 目次

<b>I</b>	<b>はじめに</b>	<b>1</b>
1	構想策定の背景と目的	1
2	検討の経過	1
3	構想の期間と対象エリア	2
<b>II</b>	<b>エリアのポテンシャル・課題</b>	<b>3</b>
<b>III</b>	<b>京都駅西部エリアの将来ビジョン</b>	<b>7</b>
1	活性化に向けた取組イメージ	7
2	7つの方策	8
3	2つの仕組み	12



# I はじめに

## 1 構想策定の背景と目的

京都駅西部エリア（以下「本エリア」という。）は、古くは平安京の南部に位置し、南北に貫く都のメインストリート・朱雀大路を中心に、東西の市や鴻臚館などの重要な都市機能が集積した地域である。

現在も、建都 1200 年記念事業として整備された梅小路公園をはじめ、京都市中央卸売市場第一市場（以下「第一市場」という。）や京都リサーチパーク（KRP）、商店街、文化・観光施設、寺社、大学といった多彩な地域資源が集積しており、京都の成長戦略を推進し、都市格を高めていく上で大変重要な地域となっている。

とりわけ梅小路公園界わいでは、京都水族館や京都鉄道博物館など、民間事業者による大きな集客施設の整備が進み、また、京都市においても、梅小路公園の拡張再整備や第一市場の施設整備に向けた検討を進めている。まさに、民間活力と京都市の施策が融合する中で、活性化の機運が大きく高まっている。

こうした状況を背景として、この活性化の機運を確実な流れとするためには、市民、企業、関係団体が長期的な見地に立った将来ビジョンを共有し、叡智を結集して、本エリアの活性化に取り組む必要がある。

そのために、本エリアの将来ビジョンと概ね今後 10 年間で取り組むべき方策を明らかにし、京都駅の東部エリア等、周辺地域の活性化の動きと一体となって、20 年後、30 年後、更には建都 1300 年に向けて、京都全体の大きな飛躍につなげていくことを目的として、「京都駅西部エリア活性化将来構想」を策定するものである。

以下、本委員会として、「京都駅西部エリア活性化将来構想」の策定について、提言する。

## 2 検討の経過

### （1）平成 24、25 年度 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議

活性化を進めていく最初のステップとして、平成 24 年 7 月、本エリアに立地する施設や団体、事業者、大学、地域住民等から成る「下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議」（以下「検討会議」という。）を設置し、本エリアのポテンシャルや課題、活性化に向けたアイデア等を検討して、平成 26 年 3 月、「下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議報告書」をとりまとめた。

また、検討会議において、マップ型情報冊子の発行やウォークツアー等の地域連携事業を実施し、関係者間の連携強化と活性化の機運醸成を図った。

### （2）平成 26 年度 京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会

2 年間にわたる検討会議の取組成果を踏まえ、本エリア、更には京都全体の活性化につながる将来構想を策定するため、学識経験者や地元、各界関係者、市民等 14 名の委員から成る京都市の附属機関「京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会」において、本エリアの将来ビジョンやその実現に向けた方策等について審議を行っている。

### 3 構想の期間と対象エリア

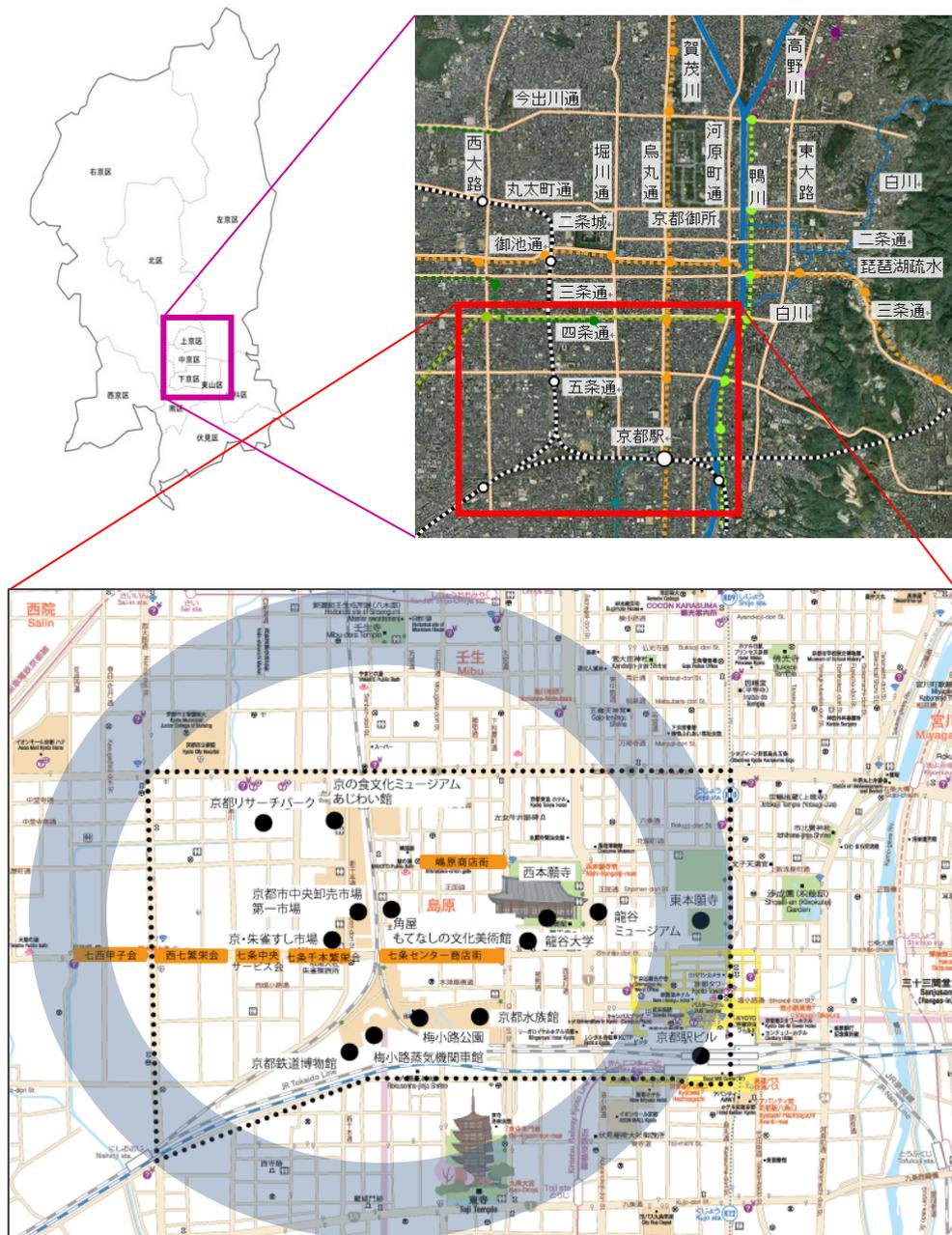
#### (1) 構想の期間

長期的な見地に立った将来ビジョンを設定するとともに、その実現に向けた具体的方策について、概ね今後10年間（平成27年度～平成36年度）で取り組むこととしている。

#### (2) 対象エリア

北は五条通、南はJR京都線、東は烏丸通、西は西大路通に囲まれたエリアを中心とし、その周辺にある「東寺」や「壬生寺」等までを含めたエリアを「京都駅西部エリア」と位置付け、対象エリアとしている。

【図表】京都駅西部エリアのイメージ



## Ⅱ エリアのポテンシャル・課題

### (1) 居住

#### 【ポテンシャル】

##### ● 緑やうるおい豊かな空間

- 梅小路公園や東・西本願寺等，都心部でありながら，緑あふれる施設や広大な空間があり，身近にうるおいを感じられる環境がある。

##### ● 充実した生活利便施設

- 商店街や商業施設，病院，福祉施設等が充実している。

#### 【課題】

##### ● 京都らしい居住空間の創出

- 下京区では，人口の増加に伴い，住宅系用途の土地利用が増加傾向にあり，本エリアにおいても，現在の街並みを維持しながら，空き家等の活用・流通を促進させる必要がある。

##### ● 「暮らしやすさ」の向上

- 本エリアでは，京都駅周辺エリアにおいて単身世帯が，梅小路西エリアにおいてファミリー世帯が増加する一方で，全市的な傾向と同様に，高齢化が進んでいる。全ての世代が安心して，楽しく暮らせるまちになるためには，このような居住層の変化に対応していく必要がある。

### (2) 業務

#### 【ポテンシャル】

##### ● 京都駅周辺への商業・業務機能の集積

- 他都市からのアクセスの良さ等を背景として，京都駅周辺を中心に，商業・業務機能が集積している。

##### ● 産学公連携と新産業創出の拠点・K R P

- KRP は，平成元年のオープン以降，順調に入居者を増やし，「産学公連携拠点・新産業創出拠点」としての存在感を増している。

##### ● 京都の食文化を支える第一市場

- 第一市場は，昭和 2 年に日本で最初の中央卸売市場として開市して以降，京都の食文化を支える流通拠点として機能している。
- 第一市場周辺に，食に関する施設として，平成 25 年に「京の食文化ミュージアム・あじわい館」が，平成 26 年 7 月には「KYOCA（京果会館）」が相次いでオープンしている。

## 【課題】

### ● KRPと周辺の連携

- KRP 入居者と周辺施設・事業者との連携による新事業の創出や、KRP 周辺への企業や研究機関の集積を進める必要がある。

### ● 第一市場を強みとした食の取組の推進

- 第一市場については、近年、流通環境の変化や施設の老朽化等に伴い、取扱数量が減少傾向にあるため、市場本来機能の強化を図る必要がある。併せて、京都・日本の食文化を牽引する役割も求められる。

### ● 商店街の活性化

- 地域住民の高齢化や生活様式の変化に対応するとともに、新たな集客施設への来訪者を呼び込む取組が求められる。
- 地域コミュニティ活性化の重要な担い手としての役割を積極的に果たす。

## (3) 集客

### 【ポテンシャル】

#### ● 数多くの魅力的な歴史・文化資源

- 東・西本願寺や島原、東寺、壬生寺など、歴史的・文化的価値を有する資源が多数存在している。

#### ● 新たな集客施設の開業

- 平成 24 年に京都水族館が開業し、梅小路公園への来訪者が急増している。また、平成 26 年 3 月、梅小路公園に「すざくゆめ広場」「市電ひろば」の 2 つの新広場が開園し、平成 28 年春には、京都鉄道博物館が開業する予定である。

#### ● 鉄道の聖地

- 貴重な動態保存蒸気機関車等、日本の鉄道の歴史を体験できる梅小路蒸気機関車館があり、また、JR 京都駅においては、様々な種類の車両が行き交う光景が見られるなど、「鉄道の聖地」と呼ぶにふさわしい地域である。

## 【課題】

### ● エリア内の回遊性の向上（小さな回遊）

- 本エリアへの来訪者には、目的の場所のみを訪れ、エリア内の他施設には行かない（回遊しない）傾向が見られる。滞在時間を延ばし、消費行動を拡大するためには、来訪者がエリア内を回遊する仕掛けが必要である。

### ● 市内の他のエリアとの回遊性の向上（大きな回遊）

- 市内の他のエリアを訪れた観光客を本エリアに呼び込む、あるいは、本エリアへの来訪者を市内の他のエリアに誘導することにより、市内での滞在時間を延ばし、市内での消費行動を拡大する。

### ● 低・未利用地の活用

- 公有地・民有地を問わず、現在十分に活用されていない、あるいは、今後生じる低・未利用地について、イベントでの活用や魅力的な集客施設を立地することにより、更なる賑わいを創出する必要がある。

## (4) 交通

### 【ポテンシャル】

#### ● 京都の玄関口である JR 京都駅

- 京都の玄関口である JR 京都駅があるため、他都市から本エリアへのアクセスが良い。また、JR 西日本の1日当たり乗車人員（平成25年）では、京都駅は、大阪駅に次いで2位と多くの利用者があり、かつ近年増加傾向にあるので、集客の面においても、その存在は有利である。

#### ● 七条通付近における新駅設置の動き

- 梅小路公園へのアクセスの改善に向けて、地元や京都商工会議所から、七条通付近における新駅設置の要望書が提出され、現在、検討が進められている。

### 【課題】

#### ● 本エリアへのアクセスの向上（大きな回遊）

- 本エリアには、JR 3 駅、地下鉄 2 駅があるが、いずれもエリアの周辺にあり、中央に位置している梅小路公園にアクセスするには不便である。梅小路公園界わいの活性化の動きをより大きなものとし、それを本エリア、京都全体の活性化につなげていくためには、エリア中心部での新駅の設定等により、梅小路公園へのアクセスを改善することが強く求められる。

#### ● エリア内の回遊性の向上（小さな回遊）

- 本エリアに望む施設として、「遊歩道・周遊バス・レンタサイクル」を挙げる声が多いことに鑑みると、来訪者にエリア内を回遊してもらうためには、より安全に、より楽しく歩ける（自転車で走行できる）環境を整備する必要がある。

## (5) 地域連携

### 【ポテンシャル】

#### ● 多様な主体による活性化に向けた動き

- 本エリアには、様々な施設や団体、事業者、大学等が存在し、それぞれに、活性化に向けた活発な動きがある。また、「下京・京都駅前サマーフェスタ」等、地域主体が連携した新たな取組も行われている。

## 【課題】

### ●多様な主体が連携して活性化に取り組む仕組みの構築

- 多様な地域主体が、本エリアの将来ビジョンを共有し、各々が果たすべき役割を認識したうえで、連携によるまちづくりを進めていく仕組みを構築する必要がある。

## 《 エリアのポテンシャル・課題 まとめ 》



## 共 通

### 交通

【ポテンシャル】

- 京都の玄関口であるJR京都駅
- 七条通付近における新駅設置の動き

【課題】

- 本エリアへのアクセスの向上（大きな回遊）
- エリア内の回遊性の向上（小さな回遊）

### 地域連携

【ポテンシャル】

- 多様な主体による活性化に向けた動き

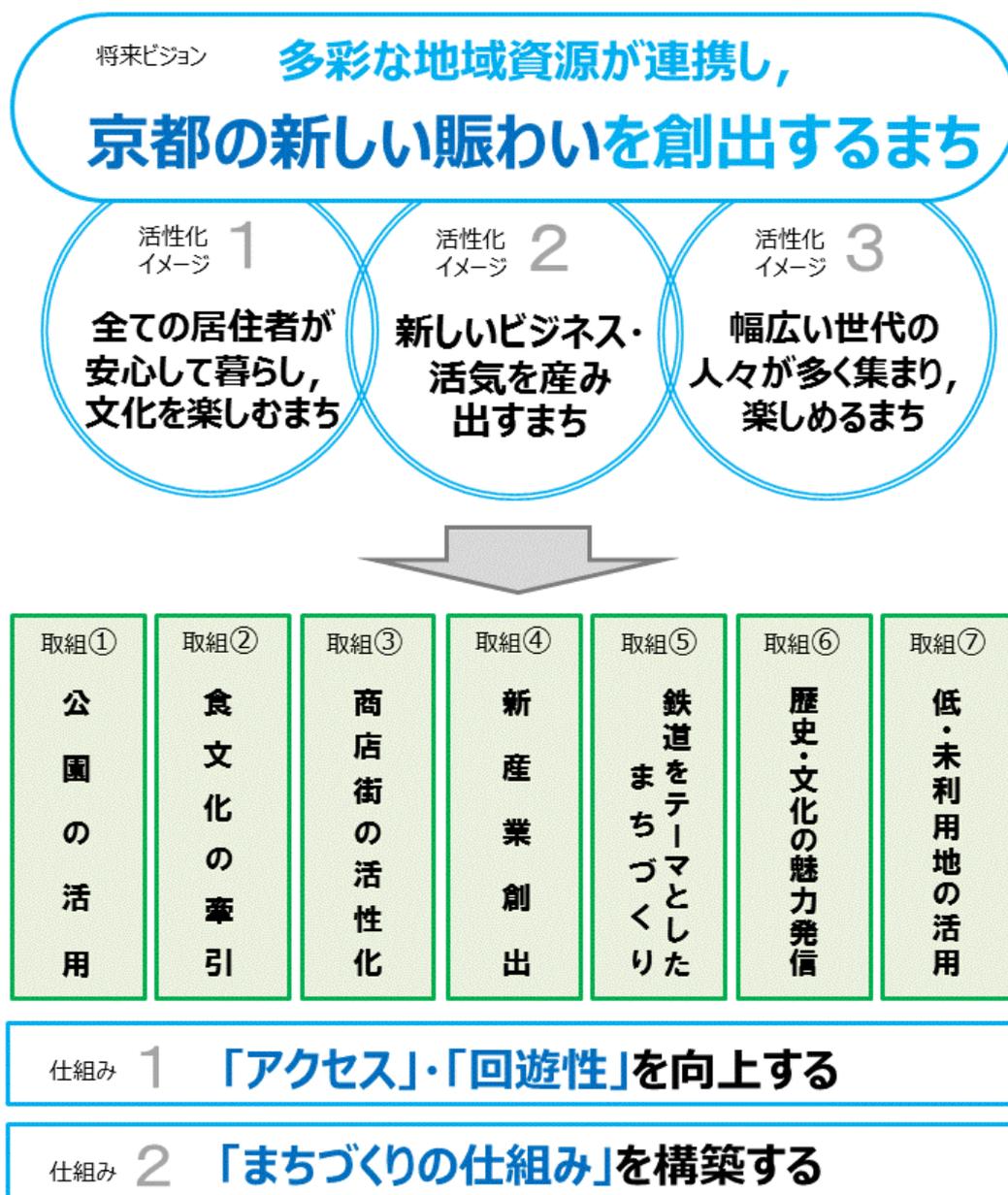
【課題】

- 多様な主体が連携して活性化に取り組む仕組みの構築

# Ⅲ 京都駅西部エリアの将来ビジョン

## 1 活性化に向けた取組イメージ

- (方針1) 全ての地域主体が将来ビジョンを共有し、民間活力と本市施策が融合する中で取組を進める。
- (方針2) これまで「課題」と考えてきたことを「ポテンシャル」として捉え直す（例えば、「空き家が多い」→「新たに活用できる建物が多い」）。
- (方針3) 本エリアの特性・強みをいかした取組を中心に進める。特に、個々の特性・強みを結びつけることによる新たな可能性を追求する。
- (方針4) エリア内だけでなく、常に他の地域を念頭に置いて、取組を進める（情報発信、回遊、連携等）。
- (方針5) 適切な時期に、具体的な指標により活性化の達成状況を検証して、取組を見直し、それを実行するというサイクルを確立する。



## 2 7つの方策

### 取組① 公園の活用

#### ●事業案① 多様な目的での活用促進

- ・(例) ウォーキング・ランニング, マルシェ等のグルメイベント  
子育てサロン, 高齢者向け健康教室  
多様な人々が交流できるイベント(手づくり市, やんちゃフェスタ)

#### ●事業案② 環境教育・普及啓発の取組

- ・京都水族館や梅小路公園「朱雀の庭」「いのちの森」等の更なる活用

#### 【主な委員意見】

- ・土井委員長(第1回) 梅小路公園のような素晴らしい公園があり, 日常的に訪れることができる環境があることは, 本エリアの大きな強みである。

### 取組② 食文化の牽引

#### ●事業案① 第一市場を中心とした“食”に関する業務機能の強化

- ・第一市場の市場機能強化(経営強化, 施設整備等)
- ・第一市場と食に関する周辺施設・事業者(商店街, KRP等)とが連携した, 新たなフードビジネスの展開  
(例) 第一市場の立地をいかした, 食料品が調達しやすいまちづくり

#### ●事業案② 第一市場を中心とした“食”による新たな賑わいの創出

- ・第一市場における見学通路の整備や市場開放イベントの開催
- ・京の食文化ミュージアム・あじわい館や KYOCA(京果会館)を活用した食育や料理教室等の実施
- ・梅小路公園でのマルシェの開催

#### ●事業案③ 第一市場の施設整備に伴う「賑わいエリア」や「有効活用地」の活用

- ・京・朱雀すし市場により創出された賑わいを, 更に大きな人の流れとするための, 「賑わいエリア」や「有効活用地」の活用

#### 【主な委員意見】

- ・内田委員(第1回) 本エリアの活性化には, 「食」の観点が重要である。
- ・池本委員(第2回) 再整備に伴い, 第一市場内に新たにできる「賑わい施設」に, 多くの観光客にお越しいただきたいと考えている。
- ・小西委員(第2回) 第一市場やあじわい館, KYOCA(京果会館)など, 食に関する情報発信, 啓発の施設が揃っているので, 構想の中で, エリアの特徴である「食文化の形成」を強気に打ち出してはどうか。

## 取組③ 商店街の活性化

### ●事業案① 地域住民の新たなニーズへの対応

- ・地域住民が商店街を使いやすくなるような環境整備
- ・地域のニーズに応える新たな取組の実施  
(例) 子育て世代や高齢者等を対象とする買い物支援サービス

### ●事業案② 来訪者を呼び込む仕掛けづくり

- ・周辺の集客施設との連携（イベントの開催，優待企画等）

### ●事業案③ 空き店舗の有効活用推進

- ・空き店舗対策事業の活用

### ●事業案④ 地域との交流促進

- ・児童の就業体験学習等，地域住民との繋がりを強化する取組の継続

#### 【主な委員意見】

- ・西村委員（第1回） 地域力で商店街を活性化したい。住民の生活時間帯と商店街の営業時間のズレの解消等，商店街にもっと人を呼び込むための工夫が必要である。
- ・池本委員（第1回） 本エリアの重要なポイントとして，商店街の活性化は外せない。「対面販売」を付加価値として打ち出し，客の信頼を得て，多くの利用客を獲得する努力が必要である。
- ・市村委員（第2回） 商店街同士の連携，地域との結びつきの強化が重要である。
- ・新山委員（第2回） 商店街の活性化には，スーパーやコンビニにはない「対面販売」の良さを打ち出していくこと，また，それができる人材の育成が大事である。
- ・新山委員（第2回） 身の回りの“食料品”の調達がしやすいまちづくりという視点から，本エリアをモデル地区のようなものに位置付けて考えてみてもよいのでは。
- ・杉本委員（第2回） 暮らしやすさと観光とのバランスを考えなければならない。現在の地域住民，とりわけ高齢者へ対応したまちづくりが必要である。

## 取組④ 新産業創出

### ●事業案① KRP を中心とした産業クラスターの形成促進

- ・KRP の機能強化
- ・KRP からのスピアウト企業の立地促進
- ・KRP と周辺施設・事業者が連携した新事業の創出（創薬，バイオ関連等）
- ・社会的課題解決に向けたソーシャルビジネスの創出

#### 【主な委員意見】

- ・土井委員長（第1回） KRP を起点に，ICT や新しい情報通信・印刷技術等のビジネスを展開する人が増えれば，日常生活も便利になり，職住近接も可能な地域となる。
- ・小西委員（第2回） KRP の最近の傾向として，創薬関連企業の入居が増加している。

## 取組⑤ 鉄道をテーマとしたまちづくり

### 事業案① 京都鉄道博物館の整備

(平成 28 年春開業予定)

### 事業案② 梅小路蒸気機関車館等、既存施設をいかした魅力発信

- ・ 鉄道をテーマとしたイベントの開催や情報発信

### 事業案③ 鉄道に関する新たな魅力も創出

- ・ JR と連携した京都鉄道博物館周辺の整備
- ・ 鉄道ファンを更に呼び込める事業者の誘致
- ・ “鉄道×アート” のまちづくり

#### 【主な委員意見】

- ・ 本政委員（第 1 回） 平成 28 年の鉄道博物館開業が、本エリアの活性化を考えるうえで最も大きなポイントになると思う。
- ・ 大濱委員（第 1 回） 鉄道をテーマにしたまちづくりによって、子育て世代や全国の鉄道ファンを呼び込める。
- ・ 大濱委員（第 1 回） 「歩くまち」の観点から、鉄道博物館までの道のりに鉄道に関する装飾を施すのも面白いのではないか。

## 取組⑥ 歴史・文化の魅力発信

### 事業案① 地域資源の発掘・磨き上げ

- ・ 隠れた資源（近代建築等）の掘り起こしや知名度の向上
- ・ 街並み修景
- ・ IT 技術を活用した歴史再現
- ・ 地域が主体となった観光ルート開発や魅力発信（着地型観光）

### 事業案② 資源のネットワーク化

- ・ マップ型情報冊子の内容の充実
- ・ 散策モデルコースの作成やウォークツアー等の回遊イベントの実施
- ・ 案内板の整備

#### 【主な委員意見】

- ・ 杉本委員（第 1 回） 京都の下町としての雰囲気を残すエリアであり、昔からある「京都の暮らしの文化」にもスポットを当てて、構想に反映してはどうか。
- ・ 大島委員（第 2 回） 七条通沿いや島原等に、独特の意匠・様式を保った昔ながらの住文化、商文化が残っている。これらは本エリアの特徴を示す宝であると言えるのではないか。
- ・ 大島委員（第 2 回） 大型の集客施設が集まるエリアと、暮らしの文化が息づく細街路

のエリア, 2つのレイヤーに分けて, 集客, 回遊を考える必要がある。

## 取組⑦ 低・未利用地の活用

### ●事業案① 多様なニーズにあった居住空間の整備

- ・「空き家活用×まちづくり」モデルプロジェクト
- ・町家の活用，京都らしい共同住宅整備誘導
- ・町家を改装した子育てカフェ

### ●事業案② “遊び+学び”機能を備えた新たな施設の誘致

- ・梅小路公園及び周辺への機能誘致  
(例) 子どもの職業体験施設，文化体験施設+温浴施設，カフェ併設のブックストア等

### ●事業案③ 京都駅周辺を中心とした企業・研究機能集積の促進

- ・京都駅周辺への企業の誘致
- ・高度医療研究開発施設

### ●事業案④ より楽しく歩ける仕掛けづくり

- ・モニュメントの設置
- ・イベントの開催

#### 【主な委員意見】

- ・東委員（第2回） 京都駅と梅小路公園の間にあるエリアの活性化，例えば，学校跡地や民間が所有する有効活用地をうまく活用し，楽しく歩ける環境を整えることによって，京都駅～梅小路公園間の心理的な距離感を縮めることができるのではないかと。
- ・荒川委員（第2回） 東京・代官山の蔦谷書店は，地域のメディアセンターあるいはコミュニティセンターのような役割も担っている。梅小路界わいでこのような機能・役割を備えた施設ができれば面白い。
- ・荒川委員（第2回） 水族館のようなレジャー施設と商店街のような生活空間の間にある「ちょっとおしゃれな日常空間」があれば，本エリアの新たな魅力につながるのではないかと。

## 3 2つの仕組み

### (1) 「アクセス」・「回遊性」を向上する

#### 取組⑧ 七条通付近における新駅の設定

##### ●事業案① JR 新駅設置の検討

###### 【主な委員意見】

- ・内田委員（第1回） 水族館や鉄道博物館という集客力のある施設の近くに駅をつくることは、本エリアにとってプラスになると思う。

#### 取組⑨ 本エリアへのアクセスの向上（大きな回遊）

##### ●事業案① JR 新駅を核としたターミナル機能の設置

- ・次世代型バスシステム（BRT）や公共車両優先システム（PTPS）導入検討

##### ●事業案② 梅小路公園周辺のバスによるアクセスの改善

- ・市内中心部からのバス路線の見直し
- ・バスの案内改善

##### ●事業案③ 京都駅周辺の環境整備

- ・駅前広場の整備（南口広場の整備）
- ・梅小路公園までの歩行者環境の整備（水族館ロード，鉄道ロード）

##### ●事業案④ JR 西大路駅の利用促進

- ・JR 西大路駅のバリアフリー化
- ・JR 西大路駅から梅小路公園までの歩行者空間の整備

###### 【主な委員意見】

- ・杉本委員（第1回） 京都の中心部（四条界わい）からのアクセスが悪く、五条通のような幹線道路があるにもかかわらず、「行きにくい」エリアという印象がある。
- ・土井委員長（第1回） バス等の公共交通の適切なネットワーク，あるいは新駅の設置等，このエリアに人を運ぶ手段について考える必要がある。
- ・土井委員長（第1回） 京都の都心部である四条界わいや市役所からの交通をうまくつなぐことがポイントである。本エリアの魅力向上によって，広域集客及び日常的に京都を往来する市内外の人々の足を止め，都心部を含む京都全体の来訪者数を増やす役割が，本エリアに期待されていると言えるのではないかと。
- ・土井委員長（第2回） 単に新しい駅を設置するというだけでなく，人が集い交通の結節点として機能するターミナル機能を備えた駅にすることを考える必要がある。
- ・内田委員（第2回） 例えば，観光客の視点に立って，市内有名観光地からのアクセスの向上に努めるなど，ターゲットごとの回遊を考えることが必要である。

## 取組⑩ エリア内の回遊性の向上（小さな回遊）

### ●事業案① 施設間をつなぐ仕掛けづくり

- ・ 飲食機能の充実
- ・ 休憩場所（ベンチ等）の増設
- ・ 案内・サイン，モニュメント，バナーフラッグ等の設置

### ●事業案② 自転車による回遊性の向上

- ・ レンタサイクル
- ・ 自転車専用道の整備

### ●事業案③ 歩行者空間の整備

- ・ 梅小路公園内の施設を快適に回遊できるルートの整備
- ・ 島原に向かう歩行者空間の整備
- ・ ベンチの設置

#### 【主な委員意見】

- ・ 本政委員（第1回） 京都水族館の開業，梅小路公園の新広場開園によって大幅に増えた来訪者を，いかに回遊させ，本エリアの中で消費していただくかが大切である。
- ・ 荒川委員（第1回） 「ポケットパーク」の設置等，誰もがゆっくり歩いてエリアを回遊できる散歩道の整備が大切である。
- ・ 荒川委員（第2回） エリア内の回遊性向上に向け，「まめバス」のようなワンコインで気軽に乗って色々な場所に立ち寄れる交通手段等も考えられる。
- ・ 池本委員（第2回） 京都駅から梅小路公園まで歩いてみると，意外と距離が近い。歩く＝健康の視点から，回遊性を考えることも大事である。
- ・ 内田委員（第2回） エリア内の回遊性向上に，レンタサイクルやサイクルロードの整備はとても有用である。

## (2) 「まちづくりの仕組み」を構築する

### 取組⑪ 多様な地域主体の連携によるまちづくり

#### ●事業案① 実施主体の明確化

- ・各事業について、実施主体とその役割を明確にする。

#### ●事業案② 多様な地域主体が連携できる仕組みの構築

- ・エリアマネジメント組織の設立
- ・リーダーとなりうる人材の発掘・育成

#### ●事業案③ 魅力情報の発信

- ・本エリアの魅力情報を総合的に発信するホームページの開設
- ・地域レポーター育成塾（情報発信の担い手育成）の実施

#### ●事業案④ イベントの開催

- ・エリア内の複数の施設・団体が連携したイベントの開催  
（例）下京・京都駅前サマーフェスタ

#### 【主な委員意見】

- ・小西委員（第1回） 様々な特徴ある施設・地域資源を繋ぎ、点の活動を線に、線の活動を面に広げていく仕掛けが必要である。
- ・小西委員（第1回） 本エリアの知名度向上に向け、情報発信の取組が肝要である。
- ・池本委員（第2回） 住民自身が「自分たちの手でこのまちを活性化する」という気概を持たねばならず、そのためのリーダーが必要である。
- ・市村委員（第2回） 活性化の推進に当たっては、様々な思いを持った関係者が連携、協力できるよう、その仲立ちをするマネジメント組織が必要である。
- ・大島委員（第2回） 活性化の担い手について、エリアマネジメント組織がどこまでの取組を視野に入れて活動するのかが鍵となる。

### 取組⑫ PDCA による進捗管理

#### ●事業案① 目標値の設定

- 活性化イメージ1 「全ての居住者が安心して暮らし、文化を楽しむまち」  
（例）居住満足度 等
- 活性化イメージ2 「新しいビジネス・活気を産み出すまち」  
（例）事業所数、就業率 等
- 活性化イメージ3 「幅広い世代の人々が多く集まり、楽しめるまち」  
（例）主な集客施設の来場者数 等

#### ●事業案② PDCA による進捗管理

- ・エリアマネジメント組織と行政が連携しながら、事業の進捗状況、実施効果等についてPDCA\*による管理を行う。

【主な委員意見】

- 土井委員長（第2回） 市民，事業者等とベクトルを揃え，同じ方向を向いて活性化の取組を進めていくために，分かりやすい目標を立てる必要がある。

※ PDCA = Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）の4段階の活動の繰り返しによる継続的な業務改善。